

市民の声

～行方市によせる想い～



笠原 実帆
(芹 沢)

市として船出し早や1年半、ことあることに行財政改革と言われている。しかし実質公債費比率が県内で下から5番目と、このように追い込まれている現在、議員も24名と削減されました。市民が負担している税金が有効に使われているのか、報



中城 かおり
(行 方)

つくば市から行方市に嫁ぎ17年目を迎えました。百里の戦闘機の騒音には未だに慣れていません。結婚を機に農を職とし、未熟ながらも茨城県の女性農業士に認定され、



繁 昌

目に青葉の季節となり、一年が早く来るようなこの頃です。繁昌に嫁いで五十余年になります。私たちが集まると「もう10年若かったら」と耳にします。そう思うこともありますが、過ぎ去った日は帰れません。朝目覚めて、「あつ、今

酬の見直し等、適切な歳出抑制がより求められていると思います。

従来の政策、行政を徹底的に見直し、無駄をなくした行財政改革を推し進めていただきたいと願うものです。今、市政がより透明で公正かつ責任あるものであるように、オンブズマンの機能を持つ機関が出来たらと痛感しています。

今後、行方市からたくさんの明るいニュースが発信されるよう、また市民の生き活きとした笑顔が溢れるよう、魅力あるまちづくりを期待します。

現在「食農教育」に力を入れ活動しています。

先日給食センターが玉造に続き麻生も民間委託されるとの話を聞き、「地産地消」をめざす行方市に、子供たちに安心安全な農産物がたくさん届けられるよう希望します。また高齢化のため、農業の後継者不足などの問題に取り組み、家族経営協定を推進し、農の大地を守っていただけるように願っています。

日も生きて良かった」と言う人の言葉にも、私も年齢を考えるようになりました。願いは誰も同じ健康でいられたら。

70歳で老人会に入り、スポーツは好きではないのに74歳になって先輩さんの勧めによりクロツケを始めました。今ではグートボールを始めました。下手の横好きですが、高齢になって、生きがいとして人と話せる仲間づくり、楽しく過ごせる事、趣味や目的を持って過ごせると、少しの体の痛み等は自然と和らげます。繁昌小学校の跡地にグランドゴルフ



なめがたの名に安堵する蝸牛
・合併を祝えぬ村の鴨びより
・ぐうとちよき良寛さまは涼しけり

少子化問題もありますが、子供たちや市民が安心して過ごせるような街作りを、市・学校・地域が連携して、犯罪防止などに対処できるように協力していきたいと思っています。「行方っていいね」とみんなから愛される市を作っていきたいです。



場も出来るそうですので期待しています。最後にりましたが、行方市のグートボールの試合には、以前バスも利用出来ましたが、老人のための利用はどうしても出来ないでしょうか。お金は払いますから是非お願いいたします。

行方市議会議員は24名です ～議会議場を改修しました～

行方市議会、平成19年4月22日に行われた市議会議員一般選挙により、新しく24名の議員でスタートしました。

議員の紹介は臨時号（平成19年6月1日発行予定）に掲載します。



おことわり

在任特例の任期が平成19年3月31日で満了したため、行方市議会広報委員会の選任の都合上、誠に勝手ながら今号の編集後記はお休みさせていただきます。

次号からまた再開しますのでご了承ください。